

地域のつながり！ 減量のたのしさ!! =きしわだ= 推進員だより

「推進員だより」では岸和田市廃棄物減量等推進員の活動や市の施策などを紹介します。

平成25年(2013年)

第17号

(3月発行)

編集と発行

岸和田市生活環境課

電話 072 (423) 9465

桜前線の待ち遠しいこれからの季節、また、公私ともに何かと忙しくなるこの時期の中でも、推進員の皆様におかれましては地域のごみ減量化、リサイクルの推進等、岸和田市の廃棄物施策にご協力いただき感謝申し上げます。社会では、物を大切にし、ごみを減らし、再利用する新たな仕組みづくりが求められる時代が変わって来ておりますが、循環型社会を構築することが必要となってきた現在社会において、今すぐ取り組むことが出来るキーワードとして『3R』があげられます。

『3R』は取り組む順番が大切です。

●第1の「R」は減らすこと 「Reduce (リデュース：減量)」

無駄だとわかっていても、レジ袋や割り箸などつい使いすぎてしまう、買った時の過剰な包装を断れない……。食事や公共の場で、無料で提供されるものはつい使い過ぎてしまう……。

小さな行動の積み重ねが、大量のごみを発生させる大きな原因となります。

経済的な価値判断はすぐについても、環境的な判断となるとなかなか働かない。使い捨てと過剰サービスに慣れきってしまった社会生活における弱点でもあります。

たとえ無料でも使わなければ資源の無駄、ごみを発生源から断ち、ごみになるものを減らすという事が、「Reduce (リデュース)」という考え方です。

不必要なものは持たない、もらわない、レジ袋を断ったり、過剰包装を断ったりということがエコライフへの第一歩となります。

●第2の「R」は繰り返し使うこと 「Reuse (リユース：再使用)」

ひと昔前までビールびんや一升びんなどは、お店に持って行き引取ってもらうことが一般的でした。すべて昔の生活に戻すことはできませんが「もったいない」という気持ちを持つことが、いま一度必要となっています。壊れたら直して使う。使わなくなったら使いたい人に譲ってあげる……。

ものを大切にすれば、ごみも減って地球も救われます。安易にごみとしてしまうのではなく、繰り返し使えるものは積極的に利用する、それが「Reuse (リユース)」です。

●最後の「R」はよく耳にする言葉ですが、本来は原材料として再生利用するという事が「Recycle (リサイクル：再資源化)」という意味です。

ごみになるものを出来るだけ減らした……。使えるものは再使用した……。しかし、生活しているとやっぱり、どうしてもごみは出てしまいます。しかし、そのごみも素材ごとに分けてあげれば、原料としてもう一度使えるものがたくさんあります。

ガラスびんは溶かして新たなびんに。牛乳パックはトイレトペーパーなどに。缶は新しい缶や鉄製品に。ペットボトルは繊維などに。その製品の元の姿に戻してあげたり、別の製品の原料に戻したりすることが出来ます。焼いてしまったり、土に埋めてしまったりすると資源をゼロにしてしまい、新たに資源を調達しなければなりません。ごみを焼くにもお金がかかり、埋めるにも土地の確保が難しくなっています。再資源化は、ごみの分別なくしては成り立ちません。ルールに従ってきちんと分別していただきますよう、ご指導、ご協力のお願いを申し上げます。



3R推進協議会キャンペーンマーク

粗大ごみふれあい収集

粗大ごみは専用電話で申込みをした後、自宅前や指定場所に出して頂くことになっていますが、それが困難な高齢者の世帯や障害者の方などへ、職員が粗大ごみを屋内から運び出して収集するサービス『ふれあい収集』を行っています。

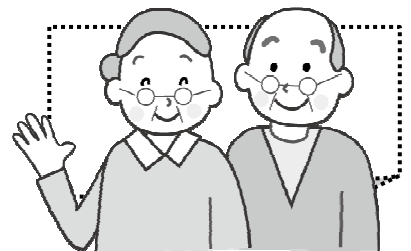
対象となる世帯は・・・

- 日常生活に介助あるいは介護を必要とし、自由な行動が困難な方のみの世帯
- 65歳以上の高齢者のみで構成されている世帯
- 日常生活に援助を必要とする障害者のみで構成されている世帯となっています。

申し込み方法など、詳しくはお問合せいただきますようお願いいたします。

ただし、下記の場合は収集できませんのでご注意ください。

- 申込み内容(品目)が異なった場合
- 収集当日に「粗大ごみ専用処理券」を購入されていない場合
- 取り外しや、解体作業が必要な場合
- 人の手で運び出せない物
- 玄関から運び出せない物
- 一般の粗大ごみで収集できない物



申込み(問合せ)専用電話 072-433-0053

受付時間 月曜日から金曜日(祝日は除く)の午前9時から午後5時30分
※『ふれあい収集』に関しましては、ファックスや岸和田市ホームページからも受付しています。

ホームページアドレス

<http://www.city.kishiwada.osaka.jp/soshiki/29/dasikata.html>

ファックス番号 072-436-0418



リユース品の無償譲渡会を行いました。

2月27日(水)・28日(木)の2日間、環境事務所内で市民の皆様からご提供いただいたリユース品、家具やベビー用品、小物など約210点を展示、2日間で約370名の方にご来場いただきました。

今年の夏頃にも、同じく譲渡会を開催する予定をしておりますので、引続き市民の皆様からの机、タンスなどの小型家具類、その他リユース品の提供を受付けております。

※ 電気製品につきましては受付けておりません



問合せ 減量推進担当 電話 423-9465

24年度 リサイクル関連施設 研修会を開催いたしました

2月5日(火)の研修会当日、早朝よりご集合いただきました参加者の方々はバス2台に分乗し、今年度の施設研修会としまして、まずは吹田市の万博公園に隣接した「千里リサイクルプラザ」に向かいました。約20年前の平成4年に竣工されましたこの施設は、敷地内に焼却炉と資源リサイクルセンターなどがあり、当時としては全国に先駆けて建設された複合施設です。今回視察させていただいた建物は1〜3階が破砕選別工場となっており、ごみ排出時、市民によって分別されたごみを効率的に処理し、資源ごみや大型・小型のごみなどを再生資源として利用するための設備を見学しました。当日ご案内していただいた担当者の方が岸和田市出身という事で、新しくなった岸和田市貝塚市クリーンセンターにも見学に訪れた事があり、今回の研修会を楽しみに待っていて下さったそうです。

○操作室から見た作業内容○

大型複雑ごみの選別を行っている様子。



作業全体の様子を見渡せる操作室は、床が一部ガラス張りとなっており、ベルトコンベアで運ばれてくる廃棄物の様子を見る事が出来るようになっています。そのガラス張りの床面は小学生が社会見学時、のぞき込みながらとても楽しんでいるそうです。

次に、資源リサイクルセンター「くるくるプラザ」と呼ばれる施設に案内していただきました。

「くるくるプラザ」という愛称は、リサイクルの“クル”と、たくさんの方が“来る”ようにと願いを込めて付けられた愛称だそうです。施設には、市民の方が要らなくな

った古着を持ち込んでリフォームなどを行う「布工房」や、使わなくなった家具の部品を集めて製品を作る「木・家具工房」などがあります。工房では、作業工具の貸出や教室なども開かれ、ていねいに作り方の指導もしていただけるそうです。他にも「紙すき工房」やガラスを溶かしてオリジナルのガラス製品を作る「ガラス工房」などもあり、市民のリサイクル活動を推進する拠点施設となっています。また今回、時間の都合で見



学出来ませんでした。不用品を持ち込んで市民の方に持ち帰っていただける「あげます・もらいます」コーナーもあるそうですが、こちらでは業者の方が大量に持ち帰り、店舗などで販売するといった問題があり困っているといったお話がありました。他にも、イベントや行事の際に使い捨て容器を使わずに済むよう、容器や食器類の貸出を行う「リユース食器」のコーナーもあり、ごみを減らす事は自分たち自身のためである事を市民工房での様々なイベント、講演や講座、そして市民による研究制度を通じ市民の方々に浸透するよう活動を行っています。

「布工房」ではリフォームされた洋服でファッションショーも行われています。

「木・家具工房」には、便利な工具やネジ、金具類なども揃っており、手軽に製作できるようになっています。

	吹 田 市	岸 和 田 市
人 口	約 35 万 6 千人	約 20 万 1 千人
世帯数	約 15 万 9 千世帯	約 8 万 4 千世帯
面 積	約 36 km ²	約 72 km ²



「千里リサイクルプラザ」での見学を終えた後、万博公園のシンボルである「太陽の塔」を眺めながら午後からは、同じく吹田市内にある「アサヒビール(株) 吹田工場」を訪れました。この工場は、甲子園球場の約4個分もの敷地があり、アサヒビール発祥の地として明治24年(1891年)に竣工された120年以上の歴史を持つ巨大工場です。竣工当時の建物の壁を移設したレンガ壁面のモニュメントや、初出荷時の貴重な写真、看板などの資料を眺めた後、工場内の案内をしていただきました。

アサヒビールでは、新技術を開発し製造工程での二酸化炭素発生量の削減につとめ、また製造時に発生する副産物や廃棄物などについても再資源化100%を達成しています。使用された原材料である麦芽の殻は肥料などに。紙、ダンボールは再び原紙に。その他、プラスチック類から鉄・アルミ類に至るまですべてリサイクルや再使用されており、工場内では約50種類にも及ぶ分別が行われています。また、環境負荷低減の取り組みといった業界共通の課題や要請に応えるため、各種業界団体とのコミュニケーションに努め、容器の肉薄化・軽量化・独自の形状開発などを図った結果、ビールなどの缶製品に使用されるアルミ使用量の削減につながっています。



まず初めに、小さな映画館のような施設でビールの製造工程や環境配慮に関する映像を見せていただきました。

各地で環境問題に取り組んでおられる人々や、身近な大企業がいかに環境事業に取り組んでいるかなど、今回の施設見学を通じ得た知識などは、今後の地域での話題にさせていただき、リサイクルについての理解を深め、今後の活動に活かして頂きますようお願いいたします。